

視聴報告 2月16日（木）報道ステーション

○小池都知事「事実を知りたい」（石原元都知事「屈辱」発言を受けて）

○トランプ合衆国に行く

ケンタッキー州に所在するテーマパーク「ノアの方舟博物館」を訪問し、来場者の多くを占めるトランプ支持のキリスト教福音派の人々を取材。人工妊娠中絶に反対するトランプ氏を支持する一方で、トランプ氏の離婚経験について聖書の記述の観点から問題視。

（検証者所感）

○小池都事は、石原元都知事の「とにかく（参考人招致から）逃げているとか隠れているとかいう屈辱を晴らしたい」という発言に対して、「都民の皆様はファクト（事実）を知りたい」と述べていたが、都民の側も小池知事の発言がファクトに反してないかしっかり監視していく必要がある。小池都政に関しては、マスメディアによる権力監視や批判が期待できないとすれば、なおさら都民一人一人が都政を監視していくことが重要と思う。

○「トランプ合衆国に行く」企画は日本メディアではあまり報道されない、キリスト教信仰に篤く聖書を価値判断の拠り所にするアメリカ人の姿が取り上げられたのはとても意義深い。一般的な日本人にとってみれば（もしかしたら世俗化が進んだ欧州のキリスト教国の国民でも同様か、アメリカにおいて人工妊娠中絶の是非や公立学校における「進化論」教育の是非を巡って、国民世論を二分する論争が未だ続いていることを正確にイメージするのは困難であるかもしれない。しかし、実は、こうした論争はアメリカでは1世紀近くわたって絶え間なく起きてきたものだ。聖書の記述に基づいて人工妊娠中絶や「進化論」に否定的な意見を表明する人々を紹介する米国メディアの視点、更にはその視点を通じて、時に「宗教右派」「原理主義者」といった一方的なレッテルを張りながら彼らの動きを見る世界の目には、彼らが無知蒙昧な存在であるという暗黙の了解があるように思える。だが、果たしてアメリカ的な無知の表出というだけで済ませることができるのだろうか。